

和田浩一さんへの

インタビュー

○職業：フォトライター

○家族構成：単身

○移住歴：2年

○お気に入りスポット

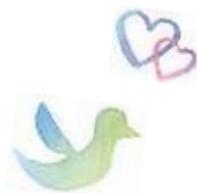
川俣谷(粥見から波瀬の川沿い)



移住する理由は人それぞれだが、趣味が高じて田舎に移住する人は多い。「博物館の展示などを作っていた会社」にいた影響で歴史や美術に興味がありました」と語る和田浩一さんもそんな趣味人の一人だ。

——移住のきっかけは？

休日には奈良や京都のお寺や神社へ良く通っていました。近鉄ウォーキングマップというのがありましてハイキングがてら歩くようになった際に、伊勢本街道を歩いてみたら往復が大変で拠点三重県にしたほうが史跡めぐりも楽になるかなと思いました。また、今まで取りためた写真や史跡についての文章をまとめることも出来るのではないかと考え準備を始めました。今の仕事をどうするかなどあったが、移住の不安はありませんでした。最初に計画していた地域とは違い飯南町に住むことになったが結果的にはそれが良かった。車がないと不便なところだが、街道一本を行けば大阪の中心地に行けますし、中世時代の小さな史跡も沢山ありますから面白いです。



『松阪の史跡を研究したい』

色んなことに特化した人達が情報を発信しているが、まとめたものが無いのでポータルサイトのようなもので網羅されているようなになれば便利ではないか。松阪市のHPなどから飛べるようにするのが良い。ただ、インターネットの回線速度が遅いので、その点は改善が必要だと思います。

——移住の先輩から一言

隣人との付き合いが苦手な人には移住は難しいと思います。私は自身のプロフィールを書いた紙を近所に配布したり、地域の集會などに参加したり、交通指導員をして、ご近所さんとの関わり方を大切にしてきた。マップを作る時など何かやるうとする際にみんなで一致団結して作ったりします。



——これからの目標は？

今後は、リアリティーを求めて、お金と時間をかけてでも足を運んでくれる人達へ情報発信をしたいです。地元の人にも史跡について多くあるのに知らなかったりするの、史跡のことをもっと広めていきながら、有間野も活性化させたい。